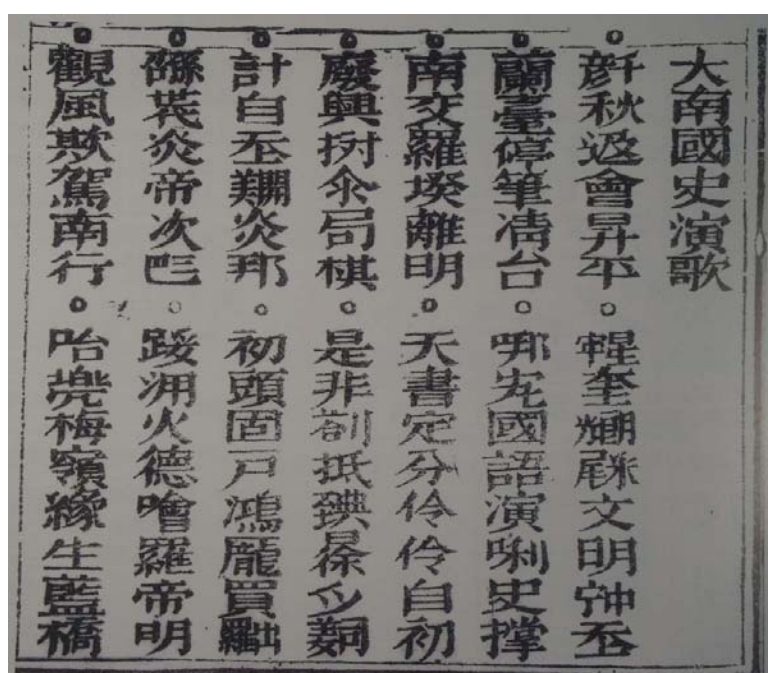


ベトナムのチュー・ノム（漢字系文字・変形）

■ 以下はチュー・ノムの資料『大南国史演歌』の一部。『図説アジア文字入門』によつた。所蔵は京都大学文学部とのこと。



■ ベトナムのチュー・ノム（字喃）は、漢字の要素を組み換えたり漢字の筆画を増減したりして作った文字である。変形文字の典型といえる。この文字は 10～11 世紀に組織化され 20 世紀初頭まで使用された。

- ・「巴」（字音）と「三」（字義）を組み合わせて「𠂔」を作り、ベトナム語の[ba]（数字の三）を表わす。上図の 7 行目参照。
- ・「天」（字義）と「上」（字義）を組み合わせて「𠂔」を作り、ベトナム語の[coi]（空）を表わす。上図の 2 行目末尾参照。

もちろん、チュー・ノム（字喃）は変形文字のみから成るわけではないが、この種の文字は比較的多い。このように周辺民族自身が漢字を変形し自らの言語を表記した場合、これを変形文字とよぶ。もっとも、その本質は中国語の中の合体字や字画の増減による新文字と異なるところはない。

なお、中国語の方言を記す方言文字とその近隣の民族が使用する変形文字の間には、変形の仕方に共通する部分が見られる。共通する部分はどのようにできたかという興味深い課題がある。

参考文献<発行年順>

- 富田建次 2001. 「チュー・ノム (字喃)」, 『言語学大辞典 別巻 世界文字辞典』(河野六郎・千野栄一・西田龍雄編著)三省堂, 2001年, 611-618頁。
- 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所編 2005. 『図説 アジア文字入門』, 東京: 河出書房新社。
- 竹内与之助 1988. 『字喃字典』東京: 大学書林。

(文責: 吉池孝一)